

子どもの居場所づくりに関する 地域資源調査・研究業務報告書

《 概要版 》



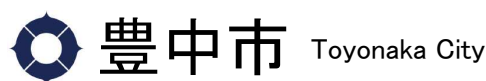
平成31年(2019年)3月

子どもの居場所づくりに関する地域資源調査・研究（概要）

※ 目的

地域における子どもの居場所だけでなく、若者や高齢者等支援する団体や施設を含めて、子どもの居場所の資源として実態や子ども支援に関わる課題等を調査し、子ども・若者の居場所の充実と、子どもを見守るための学校を核としたセーフティーネット構築にかかる今後の施策展開の検討を行うことを目的に実施

※ 実施体制



こども政策課 (子どもの貧困対策) 暮らし支援課 (若者支援対策) 地域福祉課 (地域包括ケアシステム推進)

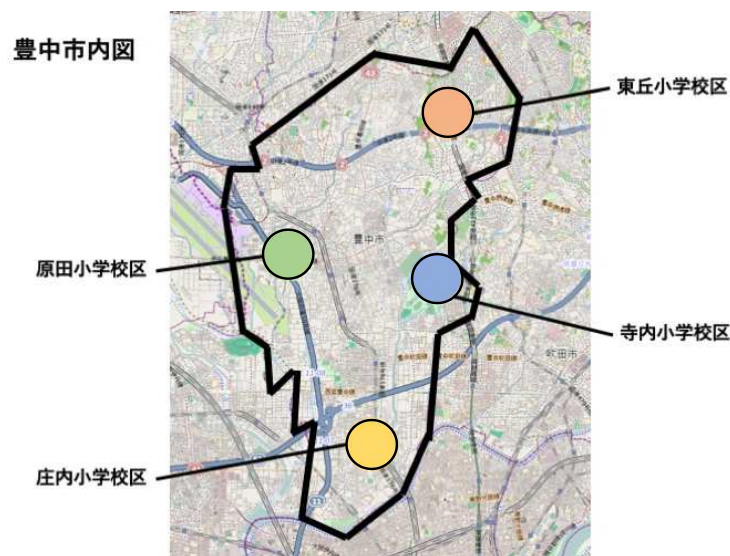
※ 実施期間 平成30年(2018年)10月～平成31年(2019年)3月

子どもの居場所づくりに関する地域資源調査・研究（概要）

※ 調査・研究内容

- ① **子ども**の居場所に関する実態調査
- ② 子どもを取り巻く**地域**の実態調査
- ③ 子どもの居場所運営**団体**の実態調査
- ④ 居場所の**可能性のある場所**に関する調査
- ⑤ 子どもの居場所に関する**先進事例**の調査
- ⑥ 調査結果の**整理と考察**
- ⑦ 居場所活動の充実に向けての**今後の方向性**

※ 対象校区



※ 小学校区を主な対象とし、概ね中学校区までを含む

① 子どもの居場所に関する実態調査（小中学生へのアンケート）

対象4校区の子ども(小4・中2)に対して調査した。回答数:732(小4:245, 中2:487)、回収率:94.6%。

※ 調査票

子どもの居場所づくりに関するアンケート調査
 豊中市 小学生・中学生向けアンケート調査票

この調査は、豊中市の小学生・中学生の皆さんの放課後や休みの日の過ごし方、将来の夢などについてたずねるものです。
 この調査は、小学生・中学生のあなたが、自分で書いてください。
 名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに書いてください。
 答えたくない質問は答える必要はありません。
 答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできる近いものを選びようにしてください。
 書き終えたら、担任の先生に提出してください。
 豊中市は、この調査結果を参考に、子どもたちのために何ができるかを考えていきますので、ご協力をお願いします。

＜この調査の問い合わせ先＞
 この調査についてわからないことがありましたら、お問い合わせください。
 豊中市 子ども未来部 子ども政策課 企画調整係
 電話 06-6858-2259 (9:00~17:00 月曜日～金曜日)
 ファクシミリ 06-6854-9533
 住所 豊中市中塚3丁目1番1号 豊中市役所第二庁舎3階
 ◆ 調査受託団体 特定非営利活動法人よなかE.S.Dネットワーク

【保護者の方へ】
 お子さまを対象にした調査を、学校を通じて実施しています。
 ご記入いただいた内容については、統計的に処理し、個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用することはございません。

小学生・中学生向けアンケート

問1 あなたは放課後や休みの日に、どこで過ごしますか？
 当てはまる番号全てに○をつけてください。

1. 自分の家	10. ゲームセンター
2. おばあちゃん、おじいちゃんの家	11. 図書館や公民館などの公共施設
3. ともだちの家	12. 地域の居場所(勉強を教えたり、年頃の子どもが集まる場所)
4. 塾	13. 放課後子どもクラブ
5. 習い事	14. その他
6. 学校(クラブ活動など)	
7. 公園	
8. スーパーやショッピングセンター	
9. その他	

問2 あなたが問1で書いた中に、ホッとできる(気持ちが落ち着いたり、ゆったりとした気分になる)場所がありますか？
 当てはまる番号全てに○をつけてください。

1. ホットできる場所がある。 → 1番ホットとする場所の番号をひとつだけ書いてください。 - { } 番

2. ホットできる場所がない。

問3 あなたは放課後や休みの日に、どこでどのように過ごしたいですか？
 自由に書いてください。

問4 あなたは今まで、学校以外でどのような体験をしましたか？
 当てはまる番号全てに○をつけてください。

1. 大塚-つうしん(スミシタなど)	6. 地域の行事(お祭やイベントなど)
2. 芸術・文化に関する活動(音楽、芸術、書道、演劇、ダンスなど)	7. 科学技術に関する活動(科学の体験や見学など)
3. 自然・野外活動(キャンプなど)	8. オンラインゲーム*
4. 海外旅行(外国へ旅行すること)	9. その他
5. 赤十字祭り活動	

問5 あなたは普段、楽しいことや嬉しいこと、または、困っていることや悩んでいることを誰に話しますか？
 当てはまる番号全てに○をつけてください。

1. 親	8. 地域の人
2. きょうだい	9. インターネットの掲示板
3. おばあちゃん、おじいちゃん	10. その他
4. ともだち	
5. 塾や習い事の先生	11. 誰も話せる人がいない
6. 放課後子どもクラブの先生	12. 誰にも話したくない
7. 子ども専用の相談電話*	13. わからない

*子ども専用の相談電話とは、子どもの悩みを電話で聞いてくれる窓口のこと。

問6 あなたは、将来の夢がありますか？
 当てはまる番号全てに○をつけてください。

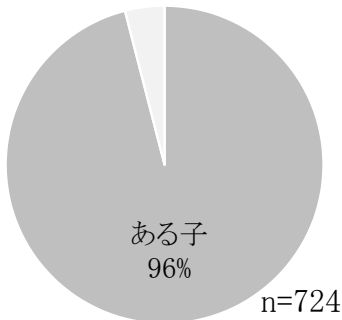
1. ある
 2. ない

① 子どもの居場所に関する実態調査（小中学生へのアンケート）

調査結果より、「ホッとできる」居場所がある子とない子の特徴、将来の夢がある子とない子の特徴、そして対象4校区の比較結果について、次のとおり明らかになった。

※ 「ホッとできる」居場所

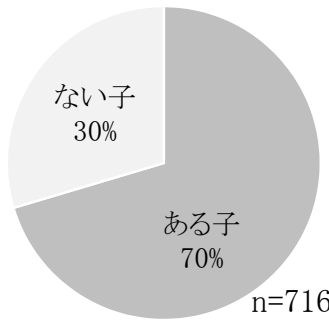
ない子4%
 ⇒ 相談相手が少ない



⇒ 「気になる子」※1ほど、相談相手が少ない

※ 将来の夢

⇒ 放課後の過ごす場所が少なく、相談相手が少ない



⇒ 放課後の過ごす場所が多く、相談相手が多い

※ 対象4校区の比較

学校以外での経験の多様性※2にのみ、校区間の差がみられた

校区	経験の多様性※2の平均
A	4.16
B	3.43
C	4.00
D	2.98

有意差あり

⇒ 他の調査で、校区の差なし

※1 ①相談相手がいない、②誰にも相談したくない、③ネガティブな自由記述、④夢がない、いずれかに該当し、その該当数を「困難度」とした

※2 問4の回答数をさす

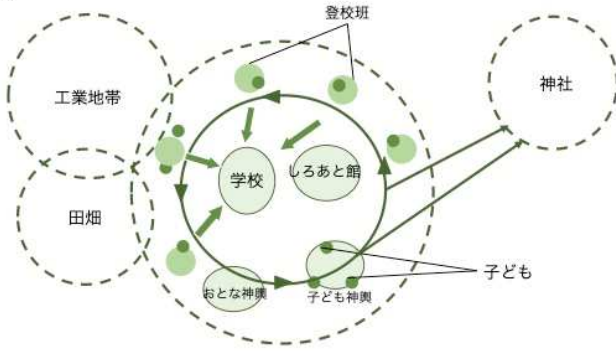
② 子どもを取り巻く地域の実態調査（キーパーソンへのヒアリング）

学校、PTA、公民分館、地域自治組織など、各対象4校区の複数のキーパーソンへのヒアリング調査結果から、地理的環境や地域資源、子どもの過ごし方、団体間のネットワークの状況をもとに、「地域ネットワークイメージ図」を作成し、学校や地域団体の連携に関する地域性の違いを次のとおり明らかとなった。 ※ イメージ図などをヒアリング対象者に確認済

※ 地域ネットワークイメージ図：原田

歴史と共存しており、神輿を通じて地元愛を育んでいるまち

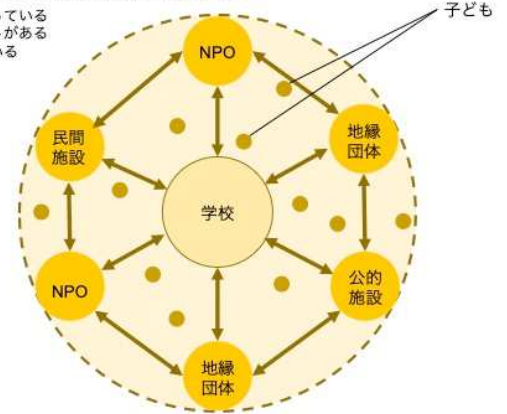
- ✓ 居場所資源が少ない
- ✓ 伝統文化が色濃い
- ✓ 三世代同居が多い



※ 地域ネットワークイメージ図：庄内

地域の大人が自然に見守り、子どもがのびのびとすごすまち

- ✓ 校区が狭く、学校が核となっている
- ✓ 世代間交流型の地域イベントがある
- ✓ 子どもが地域内に点在している



② 子どもを取り巻く地域の実態調査（キーパーソンへのヒアリング）

学校、PTA、公民分館、地域自治組織など、各対象4校区の複数のキーパーソンへのヒアリング調査結果から、地理的環境や地域資源、子どもの過ごし方、団体間のネットワークの状況をもとに、「地域ネットワークイメージ図」を作成し、学校や地域団体の連携に関する地域性の違いを次のとおり明らかとなった。 ※ イメージ図などをヒアリング対象者に確認済

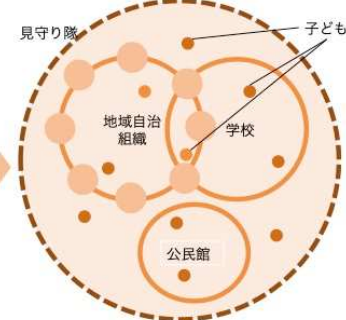
※ 地域ネットワークイメージ図：東丘

多様な主体が地域で連携し、新たな文化を創造しているまち

- <イベント時>
- ✓ 地域全体でまとまり、一つのものをつくる



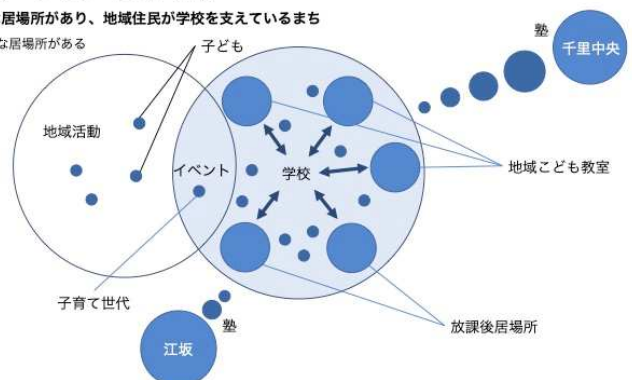
- <日常時>
- ✓ 普段はそれぞれで子どもたちを見守っている



※ 地域ネットワークイメージ図：寺内

学校内に多様な居場所があり、地域住民が学校を支えているまち

- ✓ 学校の中に多様な居場所がある
- ✓ 転勤族が多い



③ 子どもの居場所運営団体の実態調査（運営団体へのアンケートなど）

対象4校区の運営団体に対して、子どもの様子や運営に関する調査を行った。

※ 調査票

添付資料2

子どもに関わる居場所運営者へのアンケート

記入日 月 日 団体名 記入者名

子どもに関わる活動を行う際に感じていることを教えてください。

問1) 子どもに関わる中で気になることはありますか？
気になることがある場合はその項目について、理由をお答えください

項目	気になる理由
子どもの健康状態 (顔色が悪い、元気がないなど)	
子どもの発達・行動 (落ち着かないなど)	
子どもの家族との関係	
子どもの友達との関係	
子どもの学校との関係 (先生、事務員など)	
子どもの経済状況	
その他 ()	

問2) 問1に記述した気になることを見かけたときに、これまでどんな対応をしましたか？

様子を観察した など
詳しく話を聞いた
言葉かけをした (注意した・励ました など)
他の運営メンバーに相談した
保護者に連絡した
応急処置
学校に連絡した
専門機関に相談した
他の団体を紹介した
その他 ()

問3) 子どもに関わる活動をする上で必要なサポートはありますか？
以下の中から当てはまるものを全てチェックしてください。

活動に使える場所の提供
活動に使える物品の提供 (例えば:)
資金 (円/年 程度) ボランティアスタッフ (人程度)
専門スキル、知識 () 情報提供 ()
学校との連携 他団体との連携 広報協力
その他 () 必要なサポートは、特にない

問4) あなたの団体が近くで活動をしている他団体のために、提供できる資源はありますか？
以下の中から当てはまるものを全てにチェックしてください。

活動に使える場所 物品 (例えば:)
資金 (円/年 程度) ボランティアスタッフ (人程度)
専門スキル、知識 () 情報提供 ()
学校とのパイプ役 他団体とのネットワーク 広報協力
その他 () 提供できる資源は、特にない

問5) 地域の子どもたちがどんな大人になってほしいと思いますか？
今関わっている子どもたちの将来の姿をイメージして書いてください。

アンケートは以上です。
ご協力ありがとうございました。

子どもの居場所づくりに関する地域資源調査・研究業務 受託団体
NPO法人とよなかESDネットワーク

※ 調査対象施設・団体数

地区	種別※	数	合計
原田	公共施設	2	5
	支援団体	2	
	その他	1	
庄内	公共施設	2	7
	支援団体	4	
	その他	1	
東丘	公共施設	3	11
	支援団体	2	
	その他	6	
寺内	公共施設	0	4
	支援団体	0	
	その他	4	
合計	公共施設	7	27
	支援団体	8	
	その他	12	

※ 種別について
 ・公共施設…図書館、公民館等
 ・支援団体…子ども食堂、学習支援等
 ・その他…サークル・スポーツクラブ等の子どもに関わる活動をしている団体や店舗

③ 子どもの居場所運営団体の実態調査（運営団体へのアンケートなど）

運営団体の種別によって、気になる子どもの理由と対応や、運営に関して欲しいサポートの特徴が異なること、対象4校区における団体数が、校区内で資源の共有を制限することを明らかにした。

※ 運営団体の種別による特徴の違い (一部抜粋)

種別 (団体数)	公共施設 (7)	支援団体 (8)	その他 (12)
気になる子の理由	主に他の施設利用者への配慮	子どもの発達、生活、家庭面の課題	団体によって様々
対応	観察・言葉かけ	観察・言葉かけ、話を聞く メンバーで共有	観察・言葉かけ、何もしていない
欲しいサポート	ボランティア、子どもの情報	ボランティア、支援スキル 物品、資金、助成金情報	ボランティア、資金、場所

※ 対象校区別にみる資源の共有状況 (一部抜粋)

校区 (団体数)	原田 (5)	庄内 (7)	東丘 (11)	寺内 (4)
場所	0 - 2	2 - 2	5 - 3	2 - 0
専門スキル	2 - 0	1 - 3	2 - 2	1 - 0
情報	2 - 1	1 - 3	2 - 4	0 - 1
広報	0 - 2	4 - 2	6 - 2	1 - 0

※ 団体数が多い校区
⇒ 地域内で資源を共有することが、ある程度可能

※ 団体数が少ない(「0」の項目がある)校区
⇒ 地域内で資源を共有する相手を見つけにくい

※ 各欄内の数値「△ - ○」は、△=「欲しいサポート」、○=「提供できる資源」を示す

④ 居場所の**可能性のある場所**に関する調査（事業所などへのヒアリング）

対象4校区内にある医療・介護・福祉関連の一部の事業所や団体、施設に対して、現在子どもが参加できる事業があるか、今後子どもの居場所となる可能性があるかどうかの調査を行った

※ **可能性のある施設**

通所型介護施設 (デイサービス)

- * 週一日、無料で事業所の会議室を開放
- * 地域の体操教室や子育てサークルが利用
- * 今後、会議室を子どもの居場所として、運営団体に提供可能

小規模通所型介護施設

- * 休館日に地域活動の場として事業所を開放していた。
- * 人員確保の条件が整えば、子どもの居場所として活用できる可能性あり

大型の総合病院

- * 会議室など院内のスペースを開放
- * 市民交流の機会を提供したいと考えている
- * 多世代交流型の子どもの居場所として活用できる可能性あり

⇒ 地域の子どもたちにどのように広めていけばいいかわからないといった課題もみられた
これから取り組む事業所・施設に向けて、仕組みを整え、モデル的な活動を展開することが必要

④ 居場所の**可能性のある場所**に関する調査（事業所などへのヒアリング）

対象4校区内にある医療・介護・福祉関連の一部の事業所や団体、施設に対して、現在子どもが参加できる事業があるか、今後子どもの居場所となる可能性があるかどうかの調査を行った

※ **すでに取組みのある施設**

障害者共同作業所

- * 地域のこども園と連携した木工教室や、親子で参加できる布ぞうり教室を開催
- * 今後も子どもが参加できる機会を増やしていく意向あり

豊寿荘「あいあい食堂」

- * 地域の声をもとに東町近隣センター内に子どもを含む地域事業として展開
- * 同センター建替え後、新たな「子どもの居場所づくり」として、放課後学習と子ども食堂を実施予定

庄内介護予防センター 「ココカラ食堂(庄内)」

- * 庄内公民館内で多世代交流型事業として月に一回開催
- * 子どもを連れた高齢者が参加し、地域の誰もが気軽に食事・交流ができる場所

原田介護予防センター 「ココカラ食堂(原田)」

- * 高齢者施設、保育所が併設
- * 日常的に多世代が行き交う場所に立地
- * 第二土曜日に、管理栄養士が調理した食事を提供
- * 不定期で子ども向け「映画上映会」開催

⇒ 主に子どもの居場所づくりを視野に入れた多世代交流型の取組みを展開

⑤ 子どもの居場所に関する先進事例の調査（3事例の視察）

本市における今後の子どもの居場所づくりにおいて大切にすべき視点や要素を得るため、3事例の視察を行った。



茶山台としょかん：堺市

- 団地の集会場を活用した多様な世代が集まるコミュニティスペース
- 「こども会議」にて施設のルールやしたいことリストなどを子どもが話し合う
- 住民が定期的にコミュニケーションを図る場を設定し、企画などを行う
- 団地住民のデザイナーによるデザイン性が高い情報発信



あかしこども財団：明石市

- 市が設置者となり、居場所づくり等の子どもの総合支援を目的に設立
- 気づきの地域拠点として、多様な子ども食堂を市内全28小学校区内に展開
- 開設・運営の手厚い助成金交付やマニュアルの提供等、運営団体に様々な支援
- 運営団体との関係づくりや子どもを把握・支援に繋ぐための職員が巡回



フレミラ宝塚：宝塚市

- 老人福祉センターと大型児童センターの複合施設
- 普段施設を利用する中高生が企画・運営するイベントを定期的開催
- 老人福祉センター利用者との多様な世代間交流イベントの実施
- 時間帯で大人・子どもの利用者を分け、施設を有効活用する「タイムシェア」

12

⑤ 子どもの居場所に関する先進事例の調査（3事例の視察）

視察により、事業(取組み)、環境整備、資源確保において、大切にすべき視点や要素の検討を行った。

事業

- 子どもの意見を尊重した参画型の取組み
- 対話・交流に重点を置く気軽な居場所スタイル
- タイムシェアによる中高生の夜間利用

環境整備

- 全小学校区での居場所の開設・拡充
- 居場所同士の連携を生む中間支援的な仕組み
- 日常的に子どもとつながる施設職員の多職種化

資源確保

- 子どもの取組みに特化した講座、「人材バンク」
- 事業者からの寄付による補助金制度の運営
- デザイン性の高い情報発信による応援者拡充

⑥ 調査結果の整理と考察1 《子どもの居場所に関する様子》

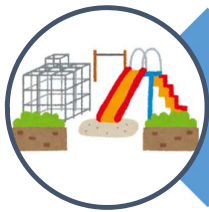
1つめに、①～⑤の調査により、子どもの居場所に関する様子について、下記の3点が明らかになった。



大多数の子どもたちはなんらかの居場所があるが、一部の子どもたちは、家や学校など心を落ち着ける居場所がなく、相談できる人も少ない



居場所がある大多数の子どもたちの中にも、なんらかの困難を抱えている「気になる子」が存在し、相談できる人が少ない傾向がある



子どもの居場所に関する地域差は、一部の調査以外でみられなかったことから、しんどい状況にある子どもは、地域の生活水準によることなく散在している

⑥ 調査結果の整理と考察2 《居場所の形態》

2つめに、居場所の形態について、子どものニーズと地域や運営団体の実態から、下記のとおり分類を行った。



子どものニーズから求められる居場所像

種類	子どものニーズ	具体的な活動イメージ
すごし場	いつでも参加できる場所	参加者を限定せず、時間的・使用目的的に制限が少ない活動
ささえる場	自身の困難によりそってもらえる場所	対象となる具体的な子どもを想定し、時に子どもの状況に介入するような専門的な活動



地域や運営団体 = 居場所活動の実態

種類	活動の方向性や理念・実際の活動	具体的な活動イメージ
オープン型	基本的に、希望者は参加することができる	図書館、公園、町の学習スペースなど
クローズ型	活動の対象が明確で、専門的である	学校、対象を限定した居場所づくり活動・子ども食堂

⑥ 調査結果の整理と考察3 《地域で居場所活動に取り組むための課題》

3つめに、地域で居場所活動に取り組むための課題として、下記が挙げられた。

「ささえる場」が
全小学校区にない

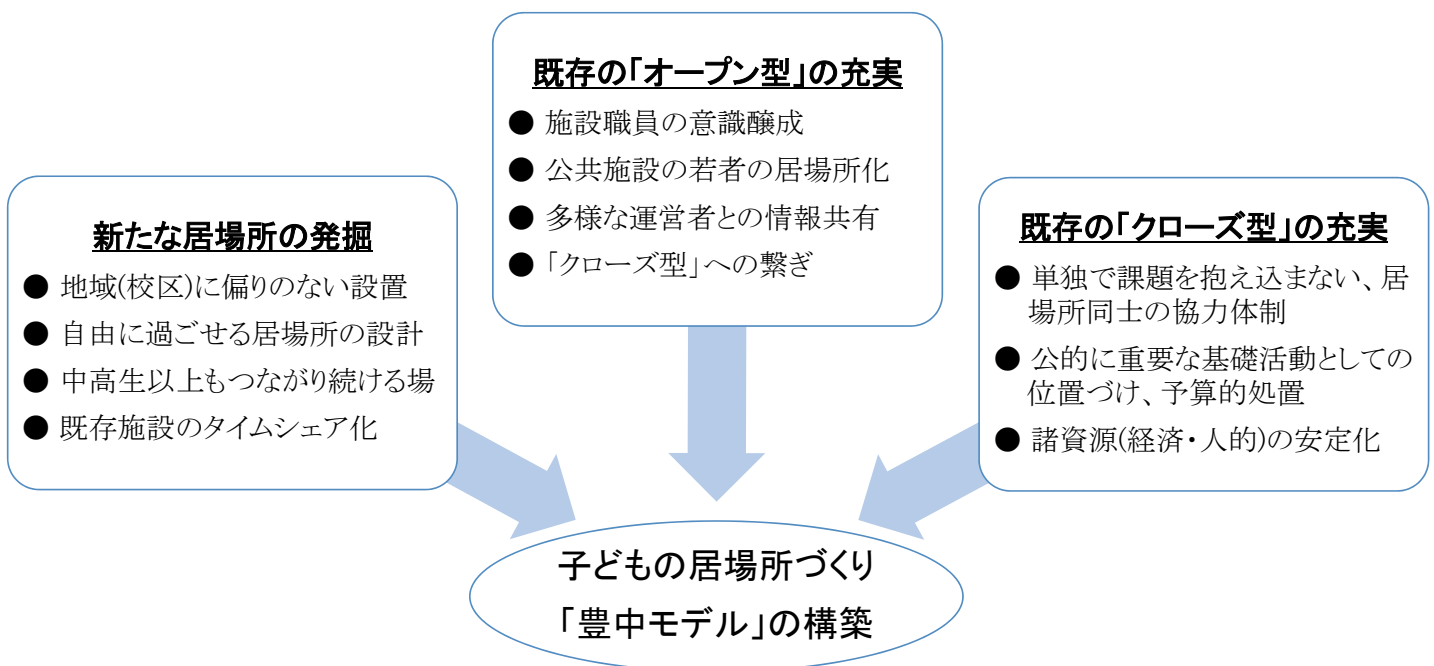
「ささえる場」は、
個人情報をお組織間で
共有できないため、
「縦割り」にならざるを得ない

居場所活動は、
予算的な裏付けが厳しく、
基礎的活動でありながら
単年的な助成金によって
運営されている

居場所活動を
安定化させるための、
人的資源を安定的に
確保することが難しい

⑦ 居場所活動の充実に向けての今後の方向性1 《居場所の発掘・充実》

子ども・若者の居場所の発掘・充実に向けて、新たな居場所や既存の居場所について、下記が今後求められる。



⑦ 居場所活動の充実に向けての今後の方向性2 《ネットワークの形成》

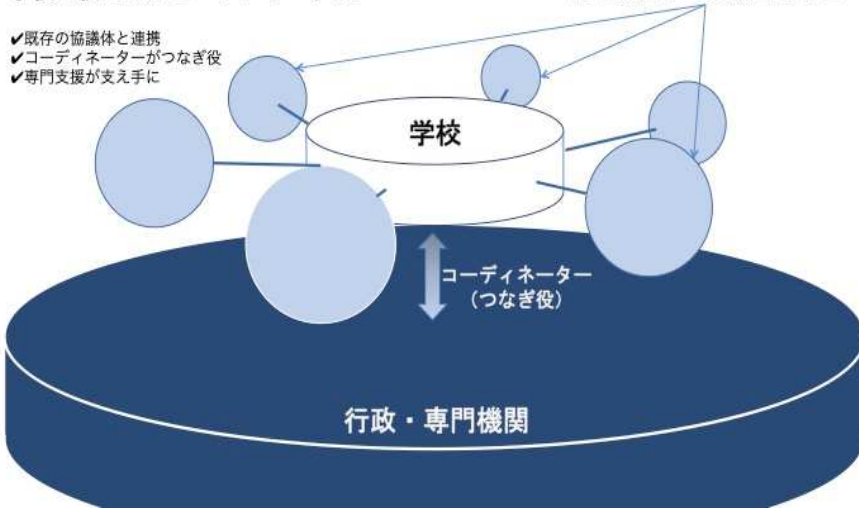
地域ごとのネットワークと、異なる2つの水準の全市的なネットワークの形成が、今後必要とされる。

学校を核としたセーフティネットの構築

学校を核としたセーフティネット

地域諸団体・支援団体など

- ✓既存の協議体と連携
- ✓コーディネーターがつなぎ役
- ✓専門支援が支え手に



- 地域特性に応じたネットワーク範囲の検討
- 既存のネットワークを活用し、居場所運営団体を加える

全市的なネットワークの形成

異なる2つの水準でのネットワーク

「すごし場」と「ささえる場」の連携

包括的に子どもの居場所に関する方向性や課題を共有

「ささえる場」同士の連携

子どもの生活に介入が必要な活動の連絡会

子どもの情報、活動資源の共有、居場所運営に関するサポート

⑦ 居場所活動の充実に向けての今後の方向性3 《その他》

基礎情報の収集、子どもを中心に据えたまちづくりに向けた行政内の連携、子どもの参画が、今後求められる。

基礎情報の収集

子どもの家庭環境や経済状況、学力や地域性などの基本的な情報に即した取組み

行政内の連携

子どもが核となり、暮らしやすいまちをめざして、様々な部局・分野の垣根を超えた更なる連携の促進

子どもの参画

子どもが多様な経験を重ね、将来の夢を考える機会の創出と、子どもの参画を促進する人材育成